

(情報名) ヤマブドウの挿し木による苗木増殖法

【要約】落葉後に採取し冷蔵庫(約2 )で貯蔵しておいたヤマブドウの1年枝(休眠枝)を、翌春(5月中旬)に3節(20~25cm)の長さに調整し挿し木することで、十分発根した良質の苗が得られ、定植後は旺盛に生育し3年目には結実が期待できる。

中山間農業技術研究所 試験研究部

【連絡先】0577-73-2029

【背景・ねらい】

飛騨地域の山中に多く自生するヤマブドウは、ワインやジュース等への加工で特産品化が期待できる品目であるが、増殖方法、栽培方法等に不明な点が多い。

そこで、挿し木による増殖方法について検討し、苗木の安定生産技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

1. 穂木は、休眠期(落葉後から2月頃)に採取した1年枝(休眠枝)を使用する。採取した穂木は、乾燥しないようにビニール等でくるみ冷蔵庫(2~5 )に貯蔵しておく。
2. 遅霜の危険が少なくなった5月上旬に、貯蔵しておいた穂木を取り出し、3節(20~25cm)の長さに切り、切り口下部を水に浸して一昼夜水上げ後、培土として鹿沼土を入れた深底の育苗箱へ、穂木を2節目まで挿す。(図1)。
3. 挿し木後、寒冷紗で日除けし適宜灌水しながら管理すると、十分発根した良質の苗が得られる(表1)。
4. 挿し木により育成した苗は、定植後旺盛に生育し、3年目以降で結実が期待できる(表2)。

【成果の活用面・留意点】

1. 発根剤(インドール酪酸粉剤、液剤)は、登録がないため使用できない。
2. 穂木には、1年生枝の十分充実した部分(中央より下部)を使用する。
3. 穂木を貯蔵する際、枝下部を斜め切りするなどして枝の上下が区別できるようにしておく。挿し木時には必ず、枝の下部を挿す。
4. 挿し穂の下部の調整は、剪定ばさみを使用すると切り口がつぶれるので切り出しナイフ等を使用する。
5. 挿し木時期は地域および方法により幅があり、ハウス等で電熱線を使用し10 以上の温度が確保できる場合は3月から行えるが、野外的場合は、遅霜の危険が少なくなれば穂木の芽が動き出す前に行う。
6. 5cm程度発根し新梢が伸長してきたら、調整ピート等を用いて鉢上げ、あるいは水はけのよい育苗ほへ移植し養成することで、翌年には苗木として定植できる。
7. 挿し木後は寒冷紗等で日除けし蒸散を抑え、十分発根し葉が展葉してきたら除去して同化作用を促す。

【具体的データ】

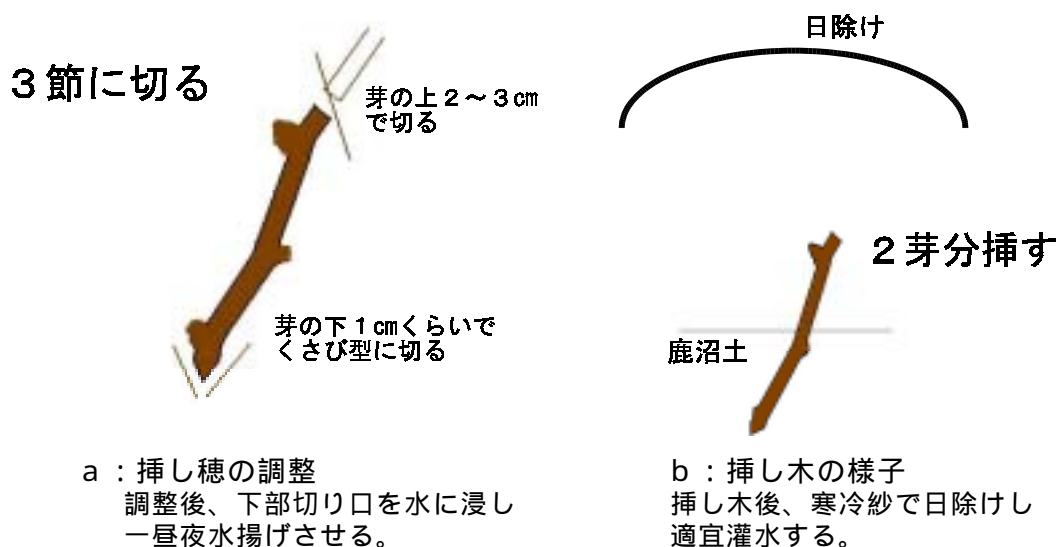


図1 休眠枝の挿し穂の調整および挿し木の方法（模式図）

表1 休眠枝挿しの発根率・程度および良苗率<sup>z</sup> (1990)

挿し穂の太さ (mm)	発根率 (%)	良苗率 <sup>y</sup> (%)	発根程度 (%)				平均根長 (cm)
			多	中	少	無	
8.7	70	58	7	51	12	30	29.2 (±18.1)
(参) 8.9	81	62	28	34	19	19	25.9 (±14.5)

<sup>z</sup> 11月に採取した穂木を冷蔵貯蔵(2 ± 1 )し、5月に挿し木

<sup>y</sup> 発根程度 多~中の苗の割合

(参) 発根剤(インド-ル酪酸粉剤1.0%)使用。ただし登録なし。

表2 挿し木苗の定植後の生育 (1990)

系統 No	1年生時		2年生時				
	幹周 (mm)	最大新梢長 (cm)	幹周 (mm)	総新梢長 (m)	総節数 2年生	平均節間長 (cm)	着房数 (房/4樹)
1	45	449	74	33.5	276	12.1	0
2	48	432	77	29.6	257	11.5	0
3	48	449	72	38.9	321	12.1	1
4	47	305	73	34.7	254	13.7	1
5	46	276	69	29.2	255	11.5	3
6	43	335	71	38.8	254	10.9	0
7	48	220	72	42.7	380	11.2	0
8	35	105	69	30.1	335	9	0
9	38	280	69	27.6	225	12.3	0
10	46	320	76	27.3	231	11.8	0
平均	44	324	72	33.5	283	11.8	-
(標準偏差)	6.4	138.7	4.9	82.2	67.5	-	-

究担当者：神尾真司、梅丸宗男、宮本善秋